

大豆新品種「とよまどか」栽培試験（1年目）

1. 目的

帯広市地域における大豆新品種「とよまどか」の品種特性や栽培適性について、検証及び普及啓蒙を図る。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「とよまどか」、対照「ユキホマレR」

(2) 面積および区制

とよまどか : 畦幅66cm×3畦×16m、1区面積32㎡

ユキホマレR : 畦幅66cm×2畦×16m、1区面積21㎡

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法
沖積土	壤土	緑肥	66cm×20cm	露地

※1株2粒播き

(4) 施肥・防除

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						防除回数	
	施肥時期	肥料名	窒素	リン酸	加里	苦土	病害	虫害
炭カル 60kg	基肥 5/15	豆用1号 70kg	2.1	17.5	9.1	3.2	2	2

4. 試験結果

(1) 生育概況

播種は1株2粒の手蒔きで行った。出芽期は両品種とも5月29日であったが播種時及び播種後の圃場水分が極めて少なかったため出芽不揃いや欠株が多かった。6月11日に補植を行ったが、ほとんど1株1本立てとなった。6月中旬から低温や日照不足が続いて生育は緩慢気味であったが、8月の高温天候により生育の回復がみられ、その後登熟は順調に進んだ。

倒伏の発生は微～少程度みられた。わい化病の発生はユキホマレRが多く、とよまどかは非常に少なかった。

(2) とよまどかの生育状況

ユキホマレRと比較して、莖長は高く、葉数はほぼ同等であった。開花期は7月16日でユキホマレRと同じであった。成熟期は9月30日で2日早かった。

倒伏程度について、成熟期の茎長がユキホマレRより20cmほど高かったが、倒伏程度は「微」で、ユキホマレRの「少」に比べ耐倒伏性は優っていた。わい化病の発生株率は1%で、ユキホマレRの14%に比べ極めて少なかった。

(2) とよまどかの収量性

ユキホマレRと比較して、とよまどかの10a当たり収量は375kgでユキホマレR対比119.7%と非常に高かった。百粒重は37.8gでユキホマレRよりやや大きかった。品質は良で同等であった。

参考：生育調査・収量調査等のデータ

① 生育及び作業ステージ

品種	播種月日	出芽期	開花始	開花期	成熟期	収穫月日
とよまどか	5/15	5/29	7/14	7/16	9/30	10/6
ユキホマレR	5/15	5/29	7/14	7/16	10/2	10/6

② 生育調査

品種	7月7日調査		9月23日調査	
	茎長(cm)	葉数(枚)	茎長(cm)	1株当り着莢数(ヶ)
とよまどか	53.2	7.5	76.5	105.1
ユキホマレR	45.0	7.7	57.0	98.5

③ 収量調査

品種	子実重(kg/10a)	対比(%)	百粒重(g)	わい化病株率(%)	倒伏程度	品質
とよまどか	375.0	119.7	37.8	1	微	良
ユキホマレR	313.3	100	37.1	14	少	良

5. 考察

とよまどかはユキホマレRに比べ、成熟期がやや早く、耐倒伏性が優れ、わい化病の発生も少なく、しかも収量性が高く、品質も同等で、かなり有望と判断された。

ただ、本年は播種時の圃場水分が少ないため、発芽不良・欠株がかなり多かったので、今後再検討が必要と思われる。



6.1 出芽状況

左：ユキホマレR 右：とよまどか
圃場水分不足による出芽不良、かん水を実施。



7.9 補植後の生育状況

左：ユキホマレR 右：とよまどか
とよまどかの生育が大きい。



8.11 着莢時の生育状況

左：ユキホマレR 右：とよまどか
とよまどかの繁茂量が多い。



10.2 成熟期の生育状況

左：ユキホマレR 右：とよまどか
倒伏はユキホマレRがやや多い。



10.2 わい化病の発生状況

左：ユキホマレR 右：とよまどか
とよまどかでの発生はほとんど見られない。



10.7 島立乾燥

左：ユキホマレR 右：とよまどか